

令和7年度

山梨県学力把握調査の結果概要

令和7年7月31日

山梨県教育委員会

令和7年度山梨県学力把握調査の結果概要

山梨県総合教育センター

1 調査の目的

節目の学年（中学校第2学年）における生徒の学習の定着状況を把握するため、調査を実施し、調査結果の分析を通して、学習指導の改善・充実に役立てる。

2 調査の実施について

対象学年	校数	受検生徒数	調査教科	出題範囲
中学校 第2学年	82校 (分校、特別支援学 校を含む)	5,386人	国語	中学校第1学年までの 学習内容から出題
		5,384人	数学	
		5,381人	英語	

※1人1台端末を用いたオンライン方式で実施

3 調査日時

実施期間	実施時間		
	国語	数学	英語
	45分	45分	45分

令和7年6月2日（月）～
令和7年6月13日（金）
の期間で指定された日に
実施

4 各教科の主な結果

教科	設問数（問）	県平均正答率（％）	推定全国値（％）	全国との差（ポイント）
国語	24	57.4	59.9	-2.5
数学	35	58.6	60.3	-1.7
英語	32	55.7	57.9	-2.2

※推定全国値とは、事前の調査による様々な指標値の結果を基に推定した正答率を示しています。

5 調査に基づく結果を踏まえた取組

①結果分析・公表

- ・学力向上フォーラム 2025（8月22日実施）

調査の分析結果を公表し、本県生徒の学力調査における結果と課題を共有する。

- ・授業の改善・充実に向けた説明会Ⅱ（8月28日実施）

小中学校の教諭等に向け、授業の改善・充実に向けた説明会を実施し、説明会後には説明スライド資料及び説明会の様子を収録した映像の配信を行う。

- ・山梨大学との連携

山梨大学と連携し、山梨県学力把握調査及び全国学力・学習状況調査結果について、専門的見地から助言を得て、分析や各種資料に反映する。

②研修会・学校訪問

- ・分析結果を反映させた研修や学校訪問による指導等を行う。学校訪問の際には、授業観察や研究会での様子を踏まえ、適切な指導を行う。

③復習教材（デジタルフォローアップドリル）を活用した課題改善

- ・生徒は、結果データから明らかになった課題等に合わせた復習教材（デジタルフォローアップドリル）を活用し、課題改善を図る。

④課題のある学習内容について「ピックアップ問題」を作成及び配信

- ・各学校は、「ピックアップ問題」を用いて、調査該当学年を含め全校体制で授業改善や個別の指導に生かす。

CBT による調査における学力指標について（IRT・LRT）

【IRT・LRT について】

CBT による学力調査では、より正確な学力指標を得るためのテスト設計がなされています。

テスト理論である「IRT: Item Response Theory (項目反応理論)」と「LRT: Latent Rank Theory (潜在ランク理論)」を活用することで、受検者の学力を適切に評価し、個々の強みや弱点を把握します。

【IRT・LRT の考え方】

	問題1	問題2	問題3	問題4	問題5	IRT 能力値	LRT レベル
	易	易	普通	難	難		
A さん	○	○	○	×	×	57.5	3
B さん	×	×	○	○	○	65.5	4

IRT と LRT の特徴は、受検者の正答・誤答が、**問題の特性（難易度等）**によるのか、**受検者の学力**によるのかを区別して、受検者の学力を算出できることにあります。

- ・ **正答率** … 全問題のうち、受検者が正答した問題数の割合
- ・ **IRT・LRT** … 問題の難易度と正答・誤答のパターンによる、
学力の質的な差異

同じ正答率でも、この「IRT によって推定された能力値」の値が異なる場合があります。これは、どの難易度の問題に正答したのか、という個々の正答・誤答のパターンから見ると、学力が同じではない、ということを意味しています。

同様に、LRT に基づいて 1～5 の学力段階を「レベル」として算出します。こちらも同様に、同じ正答率でも「レベル」が異なる場合があります。

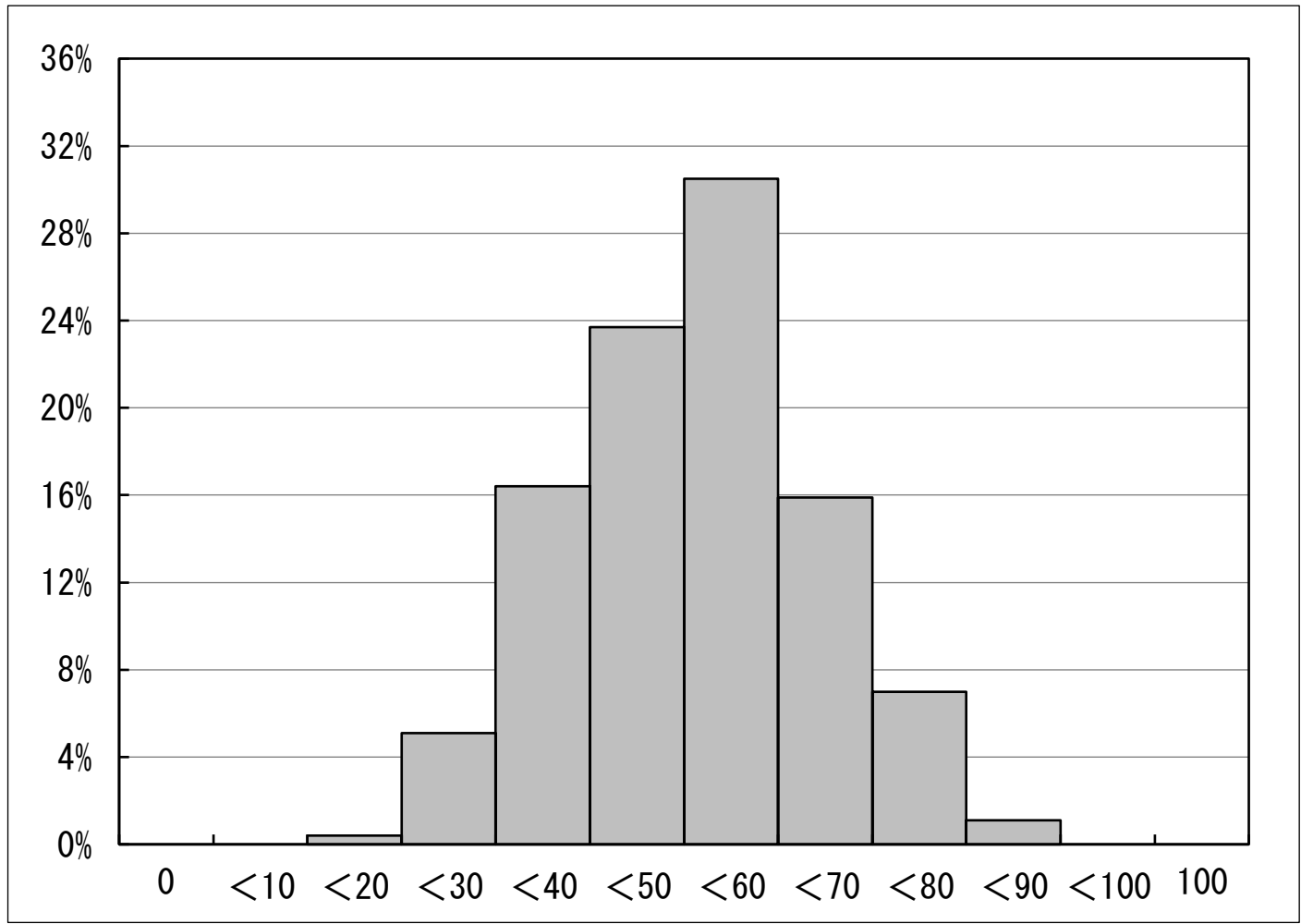
令和7年度山梨県学力把握調査の結果分析 中学校第2学年・国語

実施生徒数（人）	設問数（問）	県平均正答率（％）	推定全国値（％）	全国との差（ポイント）
5,386	24	57.4	59.9	-2.5

※推定全国値とは、事前の調査による様々な指標値の結果を基に推定した正答率を示しています。

		県平均正答率（％）	推定全国値（％）	全国との差（ポイント）
領域	言葉の特徴や使い方に関する事項	49.8	53.2	-3.4
	情報の扱い方に関する事項	48.4	50.3	-1.9
	我が国の言語文化に関する事項	72.5	70.8	1.7
	話すこと・聞くこと	68.5	71.0	-2.5
	書くこと	59.5	62.9	-3.4
	読むこと	53.0	55.3	-2.3
観点	知識・技能	53.4	55.6	-2.2
	思考・判断・表現	58.8	61.3	-2.5
解答形式	選択式	59.4	61.5	-2.1
	短答式	60.2	62.3	-2.1
	記述式	47.2	51.5	-4.3

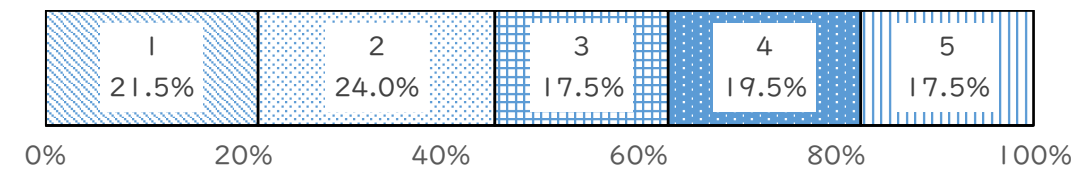
正答率分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



正答率集計値

正答率(%)	生徒数(人)	割合(%)
100	0	0.0
<100	0	0.0
< 90	59	8.9
< 80	378	7.0
< 70	855	15.9
< 60	1643	30.5
< 50	1274	23.7
< 40	883	16.4
< 30	273	5.1
< 20	21	0.4
< 10	0	0.0
0	0	0.0
計	5,386	108

レベル別人数比のグラフ



レベル別人数比（実施生徒数に対する割合）

	1	2	3	4	5
国語	21.5%	24.0%	17.5%	19.5%	17.5%

※ 教科ごとの結果に応じてレベル1～レベル5に該当する生徒の人数割合を表しています。

設問別正答率										正答者の人数割合を表しています。				
通し 番号	解 答 形 式	観 点		領 域						問題の内容	出題のねらい	県 平 均 正 答 率 （％）	推 定 全 国 値 （％）	全 国 と の 差 （ポイント）
		知	思	言 葉	情 報	言 語	話 聞	書	読					
Ⅰ	選択		○					○		学級をよりよくするために話し合う	目的に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討している。	95.1	93.9	1.2

2	選択		○				○			学級をよりよくするために話し合う	必要に応じて質問しながら話の内容を捉えている。	82.5	83.3	-0.8
3	記述		○				○				話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。	31.5	39.6	-8.1
4	選択		○				○				自分の考えや根拠が明確になるように、話の構成を考えている。	56.7	59.0	-2.3
5	選択		○				○				相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している。	76.8	79.3	-2.5
6	選択		○					○		地域の図書館についてのレポートを書く	目的に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝えたいことを明確にしている。	65.9	69.5	-3.6
7	選択	○			○					文法・語句に関する事項	情報と情報との関係について理解している。	48.4	50.3	-1.9
8	選択		○					○		地域の図書館についてのレポートを書く	読み手の立場に立って、文章を整えている。	55.5	60.2	-4.7
9	記述		○					○			根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。	54.3	57.5	-3.2
10	選択		○					○			読み手からの助言を踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。	62.1	64.2	-2.1
11	選択	○		○						文法・語句に関する事項	小学校で学習した漢字を正しく使っている。	52.3	56.7	-4.4
12	記述		○						○	言葉の使い方に関する文章を読む	目的に応じて必要な情報に着目して要約している。	28.1	31.7	-3.6
13	選択		○						○		事実と意見の関係について叙述を基に捉えている。	43.0	51.4	-8.4
14	選択		○						○		文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えている。	62.3	65.6	-3.3
15	選択		○						○			42.6	45.5	-2.9
16	選択		○						○		文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。	77.4	78.6	-1.2
17	記述		○						○			74.8	77.0	-2.2
18	短答	○		○						文法・語句に関する事項	単語について理解している。	47.8	53.7	-5.9
19	選択	○		○							文節の関係について理解している。	34.4	36.8	-2.4
20	選択		○						○	文学的な文章を読む	登場人物の心情について、描写を基に捉えている。	63.3	62.0	1.3
21	選択		○						○		表現の効果について、根拠を明確にして考えている。	39.3	39.4	-0.1
22	選択		○						○		場面と場面を結び付けて、内容を解釈している。	46.3	46.2	0.1
23	短答	○				○				文法・語句に関する事項	歴史的仮名遣いについて理解している。	72.5	70.8	1.7
24	選択	○		○							漢字の部首について理解している。	64.8	65.4	-0.6

◎観点及び領域の表記の意味は下記のとおりです。
【観点】知…知識・技能 思…思考・判断・表現
【領域】言葉…言葉の特徴や使い方に関する事項 情報…情報の扱い方に関する事項
 言語…我が国の言語文化に関する事項 話聞…話すこと・聞くこと 書…書くこと 読…読むこと

学習指導に当たって

※ 「レベル別正答率」とは、教科ごとの結果に応じた1～5のレベルに所属する集団ごとの平均正答率を算出したものです。（「レベル別人数比」は、前々ページを参照）

【よくできている設問】

通し 番号	解答 形式	観点		問題の内容	出題のねらい	県平均正 答率(%)	レベル別正答率(%)				
		知	思				1	2	3	4	5
1	選択		○	学級をよりよくするために話し合う	目的に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討している。	95.1	86.4	96.7	97.1	97.3	98.8

生徒が、目的に応じて、話合いの内容を踏まえて話題を決め、話し合う内容を検討することができている。「話すこと」「聞くこと」「話し合うこと」の指導において、何のために、何を話題として取り上げるのか、明確にすることが大切である。

通し 番号	解答 形式	観点		問題の内容	出題のねらい	県平均正 答率(%)	レベル別正答率(%)				
		知	思				1	2	3	4	5
2	選択		○	学級をよりよくするために話し合う	必要に応じて質問しながら話の内容を捉えている。	82.5	65.7	82.4	87.2	86.8	93.7

話合いから考えたことを基に、必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができている。「聞くこと」の指導において、生徒が記録したり質問したりしながら話を聞き、共通点や相違点を踏まえながら、自分の考えをまとめることが重要である。

【課題がある設問】

通し 番号	解答 形式	観点		問題の内容	出題のねらい	県平均正 答率(%)	レベル別正答率(%)				
		知	思				1	2	3	4	5
3	記述		○	学級をよりよくするために話し合う	話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。	31.5	6.3	17.2	40.0	38.5	65.6

話題や展開を捉えながら話し合うために、「何について話し合っているか」や「どのような目的で話し合っているか」といった、生徒が話合いの流れを常に意識できるような機会を設定することが考えられる。また、話合いの展開に応じて、自分の発言と他者の発言を結び付けたり、他者同士の発言を結び付けたりして、自分の考えや集団の考えをまとめられるように、話合いの内容を記録したり、考えを整理したりすることが大切である。

通し 番号	解答 形式	観点		問題の内容	出題のねらい	県平均正 答率(%)	レベル別正答率(%)				
		知	思				1	2	3	4	5
12	記述		○	言葉の使い方に関する文章を読む	目的に応じて必要な情報に着目して要約している。	28.1	5.3	14.7	31.1	35.0	64.0

目的に応じて必要な情報に着目して要約するために、生徒が要約を行う目的を明確にする場面を、学習活動の中に設定することが大切である。また、要約したものが目的に沿っているかを考え、必要な情報を取り出したり捉えたりすることができているかということを、生徒が意識できることが大切である。一人一台端末の利用や、他者と協働的に学習に取り組む機会を設定することで、要約した内容を俯瞰的な視点から捉えることができると考えられる。

通し 番号	解答 形式	観点		問題の内容	出題のねらい	県平均正 答率(%)	レベル別正答率(%)				
		知	思				1	2	3	4	5
21	選択		○	文学的な文章を読む	表現の効果について、根拠を明確にして考えている。	39.3	23.0	40.9	29.6	49.5	55.8

表現の効果について、根拠を明確にして考えるために、文章や作品等で用いられている語句や表現が、文章や作品等の内容を伝えたり、印象付けたりする上で、どのように働いているか確かめる場面を、学習活動の中に設定することが考えられる。また、自分の考えの根拠となる表現を、文章中や作品中から引用しながら述べるなど、根拠を明確にすることを生徒が意識して活動することが大切である。そして指導の際、〔知識及び技能〕の指導内容と関連させていくことが重要である。

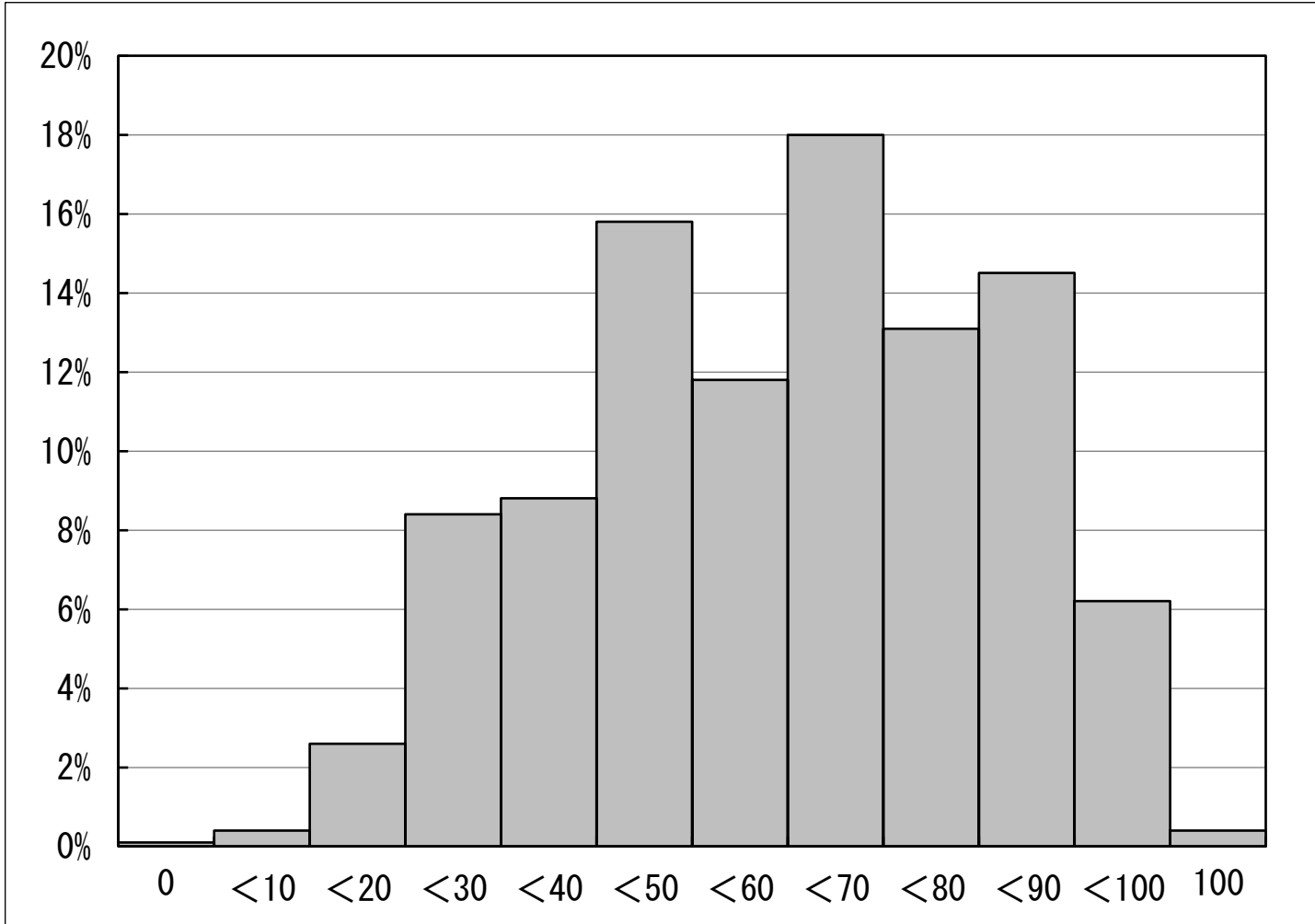
令和7年度山梨県学力把握調査の結果分析 中学校第2学年・数学

実施生徒数（人）	設問数（問）	県平均正答率（％）	推定全国値（％）	全国との差（ポイント）
5,384	35	58.6	60.3	-1.7

※推定全国値とは、事前の調査による様々な指標値の結果を基に推定した正答率を示しています。

		県平均正答率（％）	推定全国値（％）	全国との差（ポイント）
領域	数と式	60.5	62.5	-2.0
	図形	62.6	63.4	-0.8
	関数	58.3	61.5	-3.2
	データの活用	50.1	51.2	-1.1
観点	知識・技能	62.1	63.6	-1.5
	思考・判断・表現	50.9	53.3	-2.4
解答形式	選択式	62.7	64.2	-1.5
	短答式	56.2	58.0	-1.8
	記述式	26.6	31.2	-4.6

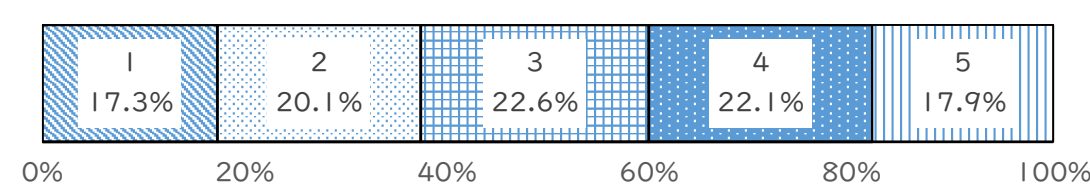
正答率分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



正答率集計値

正答率(%)	生徒数(人)	割合(%)
100	20	0.4
<100	333	6.2
<90	779	14.5
<80	705	13.1
<70	967	18.0
<60	637	11.8
<50	851	15.8
<40	475	8.8
<30	454	8.4
<20	138	2.6
<10	22	0.4
0	3	0.1
計	5,384	100

レベル別人数比のグラフ



レベル別人数比（実施生徒数に対する割合）

	1	2	3	4	5
数学	17.3%	20.1%	22.6%	22.1%	17.9%

※ 教科ごとの結果に応じてレベル1～レベル5に該当する生徒の人数割合を表しています。

設問別正答率								設問別正答率					
通し 番号	解 答 形 式	観 点		領 域				問題の内容	出題のねらい	県 平 均 正 答 率 (%)	推 定 全 国 値 (%)	全 国 と の 差 (ポイント)	
		知	思	数 式	図 形	関 数	デ 活						
1	選択	○		○				正の数・負の数	絶対値について理解している。	76.0	76.8	-0.8	
2	選択	○		○					負の分数と負の整数の大小を比較することができる。	38.8	42.3	-3.5	
3	選択	○		○					素因数分解について理解している。	80.8	83.2	-2.4	
4	選択	○		○				文字式	1次式の減法の計算ができる。	70.2	67.8	2.4	

5	選択	○		○				文字式	分子が1次式である分数の乗法の計算ができる。	81.8	81.4	0.4
6	短答	○		○				1次方程式	移項について理解し、簡単な1次方程式を解くことができる。	62.8	67.7	-4.9
7	短答	○		○					かっこを含む1次方程式を解くことができる。	53.9	56.7	-2.8
8	短答	○		○					分数を含む1次方程式を解くことができる。	34.8	41.1	-6.3
9	短答	○		○				正の数・負の数	かっこを含む正負の数の減法の計算ができる。	82.6	81.2	1.4
10	短答	○		○					累乗を含む正負の数の計算ができる。	84.0	82.2	1.8
11	短答	○		○					正負の数の四則混合の計算ができる。	53.0	55.9	-2.9
12	選択	○		○				文字式	問題文の数量の関係を正しい不等式に表すことができる。	50.9	54.5	-3.6
13	短答		○	○				1次方程式	タイルの縦の長さを、比例式を使って求めることができる。	58.6	60.4	-1.8
14	短答		○	○					所持金についての方程式の x が何を表しているかを求めることができる。	45.9	50.4	-4.5
15	短答		○	○					ケーキの個数についての方程式の x が何を表しているかを求めることができる。	33.4	36.0	-2.6
16	選択	○					○	比例・反比例	x 、 y の比例関係を表す表から比例の式を選ぶことができる。	71.0	73.6	-2.6
17	選択	○					○		x 、 y の値が与えられたとき、それを満たす反比例の式を選ぶことができる。	56.1	59.5	-3.4
18	選択	○					○		反比例のグラフから反比例の式を選ぶことができる。	45.8	50.2	-4.4
19	選択		○				○		グラフの傾き方から、問題文の条件にあうグラフを選ぶことができる。	49.7	53.7	-4.0
20	選択		○				○		日常生活の場面で比例の考え方が利用できることを理解し、問題解決に必要な情報を選ぶことができる。	69.0	70.6	-1.6
21	選択	○				○		平面図形	合同な2つの図形をみて、どのような移動をさせたのかを理解している。	80.3	79.1	1.2
22	選択	○				○			三角形の角の二等分線にかくために必要な作図を選ぶことができる。	83.7	84.7	-1.0
23	記述		○		○			空間図形	面と辺の位置関係について正しく理解し、問題文のことがらがいつも正しいとはいえないことを説明することができる。	23.4	28.6	-5.2
24	選択		○		○				ある図形の回転体の見取図を選ぶことができる。	76.1	73.9	2.2
25	選択		○		○				四角錐の投影図を選ぶことができる。	71.0	72.3	-1.3
26	選択		○		○				円錐の展開図から、その表面積を求める式を選ぶことができる。	70.1	71.1	-1.0
27	選択	○				○			底面積が等しく、高さも等しい円錐と円柱の体積について、正しく説明した文章を選ぶことができる。	51.4	53.7	-2.3
28	選択	○				○			球の体積を求める式を選ぶことができる。	44.4	44.0	0.4
29	選択	○					○	データの散らばりと代表値	ヒストグラムの代表値の関係について、正しく理解している。	31.5	35.1	-3.6
30	選択	○					○		度数分布表のある階級の度数を、ヒストグラムから読み取ることができる。	90.4	89.4	1.0
31	選択	○					○		あるデータの中央値を求めることができる。	56.7	59.5	-2.8
32	短答	○					○		累積度数について理解している。	45.9	42.0	3.9
33	短答	○					○		問題文のヒストグラムの階級の幅を読み取ることができる。	63.3	63.9	-0.6
34	選択		○				○		問題文の表やヒストグラムを正しく読み取ることができる。	32.9	35.0	-2.1
35	記述		○				○		平均値についての説明の正誤を判断し、その判断の理由を正しく説明することができる。	29.7	33.8	-4.1

◎観点及び領域の表記の意味は下記のとおりです。
【観点】知…知識・技能 思…思考・判断・表現
【領域】数式…数と式 図形…図形 関数…関数 デ活…データの活用

学習指導に当たって

※ 「レベル別正答率」とは、教科ごとの結果に応じた1～5のレベルに所属する集団ごとの平均正答率を算出したものです。（「レベル別人数比」は、前々ページを参照）

【よくできている設問】

通し 番号	解答 形式	観 点		問題の内容	出題のねらい	県平均正 答率(%)	レベル別正答率(%)				
		知	思				1	2	3	4	5
22	選択	○		平面図形	三角形の角の二等分線にかくために必要な作図を選ぶことができる。	83.7	56.9	80.1	86.8	92.7	98.8

三角形の角の二等分線を作図する方法を理解することができている。このことから、角の二等分線を利用した作図の問題を取り上げ、角の二等分線の性質についての理解を深めることも大切である。

通し 番号	解答 形式	観 点		問題の内容	出題のねらい	県平均正 答率(%)	レベル別正答率(%)				
		知	思				1	2	3	4	5
30	選択	○		データの散らばりと代表値	度数分布表のある階級の度数を、ヒストグラムから読み取ることができる。	90.4	66.1	88.8	94.7	99.1	99.6

ヒストグラムから、ある階級の度数を読み取ることができている。このことから、読み取った情報をもとに、データの散らばりの傾向を捉えることができるように指導することが大切である。

【課題がある設問】

通し 番号	解答 形式	観 点		問題の内容	出題のねらい	県平均正 答率(%)	レベル別正答率(%)				
		知	思				1	2	3	4	5
2	選択	○		正の数・負の数	負の分数と負の整数の大小を比較することができる。	38.8	22.7	22.5	32.4	44.8	73.6

負の数同士の大小を比較する場面で、絶対値が大きいほど大きいと捉えた生徒がいると考えられる。「負の数は、絶対値が大きいほど小さいこと」が理解できるように指導することが大切である。数の大小を比較するとき、数直線上にそれらの数に対応する点を表す場面を設定することが考えられる。その際、ある数に対応する点と原点との距離が、その数の絶対値であることと関連付けて、「負の数は、絶対値が大きいほど小さいこと」を確認する活動を取り入れることが考えられる。

通し 番号	解答 形式	観 点		問題の内容	出題のねらい	県平均正 答率(%)	レベル別正答率(%)				
		知	思				1	2	3	4	5
15	短答		○	1次方程式	ケーキの個数についての方程式の x が何を表しているかを求めることができる。	33.4	1.1	9.2	23.4	51.3	82.4

方程式の x が表す数量を理解できていない生徒がいると考えられる。具体的な場面における問題を方程式を活用して解決する際、方程式に含まれる文字や数がどの数量を表しているかを確認することが大切である。具体的な場面から方程式をつくる過程で、ある生徒が求めた文字式の意味を、他の生徒に問う場面を設定することが考えられる。その際、文字で表した数量を具体的な数に置き換える場面を設定し、文字を使った式の取り扱いに慣れていない生徒にも配慮し、少しずつ文字を使った式の理解を促していく。このような活動を通して、問題の条件を満たす方程式を見いだす過程を丁寧に扱うことが大切である。

通し 番号	解答 形式	観 点		問題の内容	出題のねらい	県平均正 答率(%)	レベル別正答率(%)				
		知	思				1	2	3	4	5
18	選択	○		比例・反比例	反比例のグラフから反比例の式を選ぶことができる。	45.8	16.6	18.0	31.9	68.1	95.4

反比例の式は理解しているものの、反比例における比例定数の意味が理解できていない生徒がいると考えられる。反比例のグラフから反比例の式を正しく求めることができるように指導することが大切である。その際、反比例の式にグラフが通る点の座標を代入して比例定数を求める方法だけでなく、反比例の関係を「 x と y の積が一定」と捉え、その積が比例定数であることを確認する活動を取り入れることが考えられる。その際、比例の関係が「 y を x でわった商が一定」であることと対比して捉えることができるように指導することも考えられる。

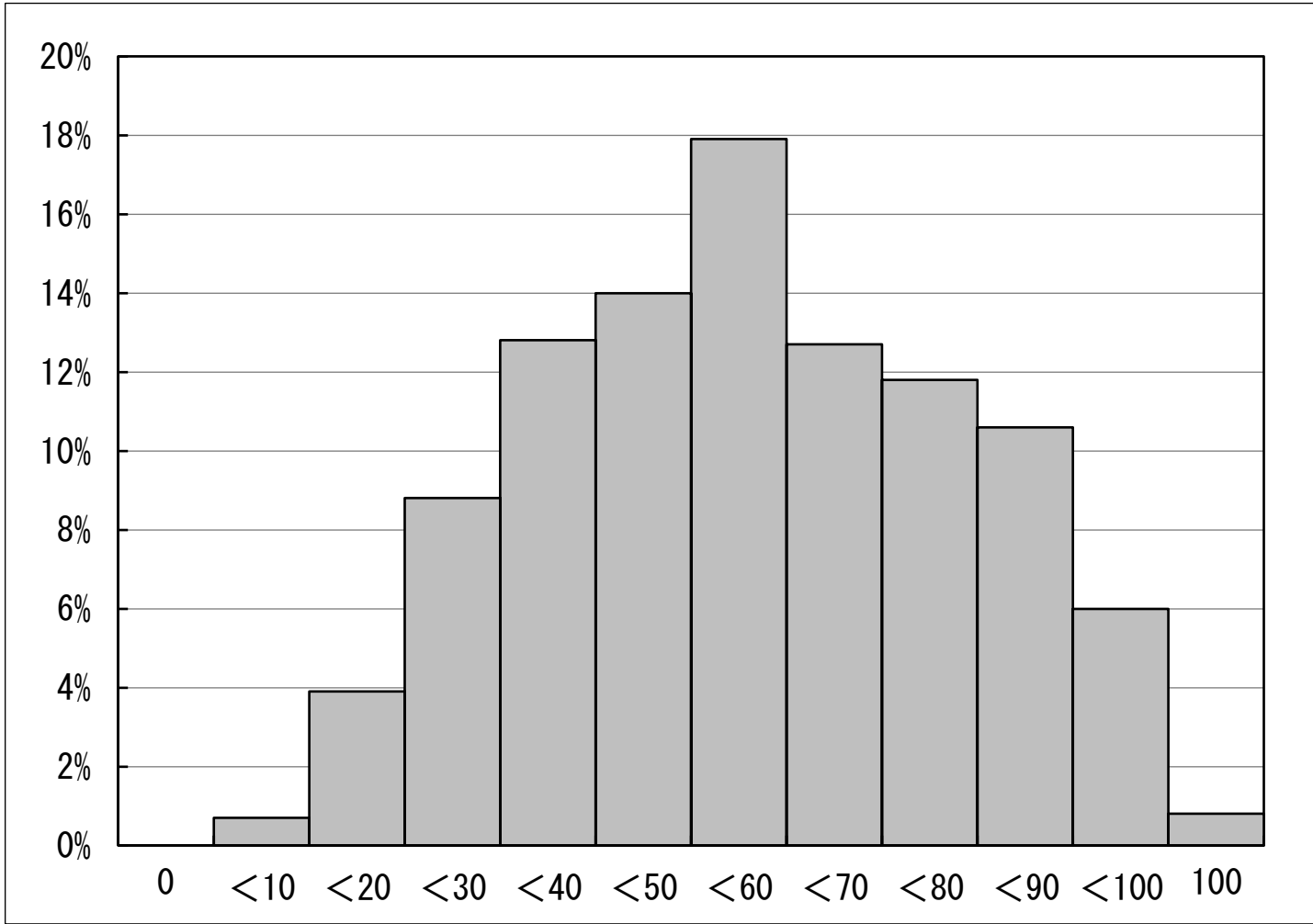
令和7年度山梨県学力把握調査の結果分析 中学校第2学年・英語

実施生徒数（人）	設問数（問）	県平均正答率（％）	推定全国値（％）	全国との差（ポイント）
5,381	32	55.7	57.9	-2.2

※推定全国値とは、事前の調査による様々な指標値の結果を基に推定した正答率を示しています。

		県平均正答率（％）	推定全国値（％）	全国との差（ポイント）
領域	聞くこと	65.6	69.2	-3.6
	読むこと	52.1	53.6	-1.5
	書くこと	51.2	53.1	-1.9
観点	知識・技能	64.8	66.6	-1.8
	思考・判断・表現	42.3	45.1	-0.5
解答形式	選択式	57.1	59.4	-2.3
	短答式	68.2	69.2	-1.0
	記述式	34.7	38.0	-3.3

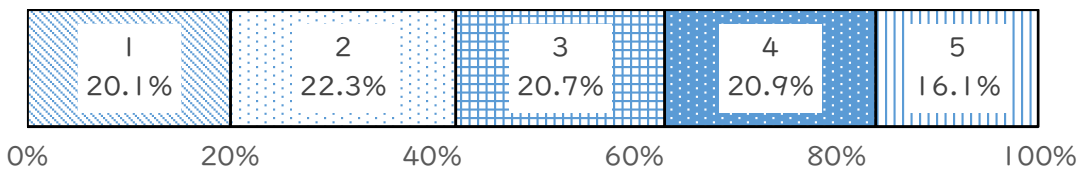
正答率分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



正答率集計値

正答率(%)	生徒数(人)	割合(%)
100	41	0.8
<100	324	6.0
<90	568	8.9
<80	635	11.8
<70	683	12.7
<60	964	17.9
<50	753	14.0
<40	687	12.8
<30	473	8.8
<20	212	3.9
<10	40	0.7
0	1	0.0
計	5,381	98

レベル別人数比のグラフ



レベル別人数比（実施生徒数に対する割合）

	1	2	3	4	5
英語	20.1%	22.3%	20.7%	20.9%	16.1%

※ 教科ごとの結果に応じてレベル1～レベル5に該当する生徒の人数割合を表しています。

設問別正答率							設問別正答率				
通し 番号	解 答 形 式	観 点		領 域			問題の内容	出題のねらい	県 平 均 正 答 率 (%)	推 定 全 国 値 (%)	全 国 と の 差 (ポ イ ン ト)
		知	思	聞	読	書					
1	選択	○		○			リスニング（内容理解）	絵を適切に表している英文を聞き、その内容を理解している。（禁止）	77.7	85.8	-8.1
2	選択	○		○				絵を適切に表している英文を聞き、その内容を理解している。（曜日）	81.6	83.3	-1.7
3	選択	○		○				絵を適切に表している英文を聞き、その内容を理解している。（動作と時間帯）	68.8	68.5	0.3

4	選択	○		○				リスニング（対話文の応答）	対話を聞き、適切に応答している。（第三者の行動をたずねられて）	60.9	65.2	-4.3
5	選択			○	○			リスニング（対話文の応答）	対話を聞き、対話の概要を捉えて適切に応答している。（自分で作ったのかをたずねられて）	55.2	58.4	-3.2
6	選択			○	○			リスニング（対話文の応答）	対話を聞き、対話の概要を捉えて適切に応答している。（何時に来たかをたずねられて）	51.1	55.2	-4.1
7	短答			○	○			リスニング（さまざまな英文の聞き取り）	日常的な話題について聞き、概要を捉えている。	95.4	95.3	0.1
8	選択			○	○			リスニング（さまざまな英文の聞き取り）	日常的な話題について聞き、要点を捉えている。	50.5	55.8	-5.3
9	記述			○	○			リスニング（対話文の応答）	対話から必要な情報を聞き取り、絵をもとに英語で答えている。	49.3	55.7	-6.4
10	選択	○				○		語形・語法の知識・理解	対話文を読み、文構造や文法事項を理解している。（命令文の動詞の形）	50.3	56.4	-6.1
11	選択	○				○		語形・語法の知識・理解	対話文を読み、文構造や文法事項を理解している。（現在進行形）	63.8	63.8	0.0
12	選択	○				○		語形・語法の知識・理解	対話文を読み、文構造や文法事項を理解している。（一般動詞過去の疑問文）	34.0	37.3	-3.3
13	選択	○				○		語形・語法の知識・理解	対話文を読み、文構造や文法事項を理解している。（所有代名詞の形）	79.3	80.3	-1.0
14	選択	○				○		語彙の知識・理解	対話文の情報を読み取り、その内容を理解している。	80.0	78.4	1.6
15	選択	○				○		語彙の知識・理解	対話文の情報を読み取り、その内容を理解している。	80.2	80.9	-0.7
16	選択	○				○		さまざまな英文の読み取り	対話を読み、対話の流れと資料から、問われている内容を理解している。	51.4	55.0	-3.6
17	選択	○				○		さまざまな英文の読み取り	対話を読み、対話の流れと資料から、問われている内容を理解している。	54.5	51.5	3.0
18	選択	○				○		さまざまな英文の読み取り	英文の内容を理解し、適切な絵を選んでいる。	47.3	50.5	-3.2
19	選択			○		○		さまざまな英文の読み取り	英文から必要な情報を読み取っている。	20.8	26.9	-6.1
20	選択			○		○		さまざまな英文の読み取り	英文を読み、その概要を捉えて適切な順番で絵を選んでいる。	29.4	27.0	2.4
21	選択	○				○		長文の読み取り	生徒が校内に配信した話の内容を読み、指示語が指す内容を理解している。	65.1	67.5	-2.4
22	選択	○				○		長文の読み取り	生徒が校内に配信した話の内容を読み、適切な絵を選んでいる。	50.8	50.5	0.3
23	選択			○		○		長文の読み取り	生徒が校内に配信した話の内容を読み、その要点を捉えている。	47.1	49.1	-2.0
24	短答			○		○		長文の読み取り	生徒が校内に配信した話の内容を読み、その要点を捉えてメールを書いている。	27.7	29.0	-1.3
25	短答	○					○	単語の並べかえによる英作文	文の語順を理解し、正確に書いている。（whoを含むbe動詞の疑問文）	76.7	75.9	0.8
26	短答	○					○	単語の並べかえによる英作文	文の語順を理解し、正確に書いている。（助動詞canの疑問文）	51.7	56.8	-5.1
27	短答	○					○	単語の並べかえによる英作文	文の語順を理解し、正確に書いている。（一般動詞過去の否定文）	79.0	78.1	0.9
28	短答	○					○	単語の並べかえによる英作文	文の語順を理解し、正確に書いている。（whatを含む現在進行形の疑問文）	78.6	80.1	-1.5
29	記述			○			○	場面に応じて書く英作文	対話の流れに合った英文を、相手に伝わるように書いている。（How manyを使って数をたずねる）	22.4	28.2	-5.8
30	記述			○			○	場面に応じて書く英作文	対話の流れに合った英文を、相手に伝わるように書いている。（Whereを使って場所をたずねる）	16.7	21.9	-5.2
31	記述			○			○	3文以上の英作文	自分の得意なことについて、まとまった内容で説明する文を書いている。	31.0	34.9	-3.9
32	記述			○			○	3文以上の英作文	友達の動画に合わせた紹介文を、英語で相手に伝わるように書いている。	53.9	49.1	4.8

◎観点及び領域の表記の意味は下記のとおりです。

【観点】知…知識・技能 思…思考・判断・表現
【領域】聞…聞くこと 読…読むこと 書…書くこと

学習指導に当たって

※ 「レベル別正答率」とは、教科ごとの結果に応じた1～5のレベルに所属する集団ごとの平均正答率を算出したものです。（「レベル別人数比」は、前々ページを参照）

【よくできている設問】

通し 番号	解答 形式	観点		問題の内容	出題のねらい	県平均正 答率(%)	レベル別正答率(%)				
		知	思				1	2	3	4	5
7	短答		○	リスニング（さまざまな英文の聞き取り）	日常的な話題について聞き、概要を捉えている。	95.4	84.2	95.9	98.7	99.1	99.9

日常的で簡単な話題についてのまとまりのある発話を聞き、その概要や話の流れを正確に捉えることができている。リスニングを行う際、話の概要や流れを意識しながら生徒が聞く意識をもたせる指導を行うことは、今後も引き続き行っていく必要がある。

通し 番号	解答 形式	観点		問題の内容	出題のねらい	県平均正 答率(%)	レベル別正答率(%)				
		知	思				1	2	3	4	5
15	選択	○		語彙の知識・理解	対話文の情報を読み取り、その内容を理解している。	80.2	28.7	81.5	95.0	98.2	99.9

小学校外国語科・外国語活動から継続的に学んでいる簡単な英単語や表現を理解している。語彙の拡充は、全ての領域において必要となるので、今後も理解を深めることが重要である。

【課題がある設問】

通し 番号	解答 形式	観点		問題の内容	出題のねらい	県平均正 答率(%)	レベル別正答率(%)				
		知	思				1	2	3	4	5
19	選択		○	さまざまな英文の読み取り	英文から必要な情報を読み取っている。	20.8	3.6	7.3	15.4	28.2	58.1

複数の情報が含まれる文章から必要な情報を読み取るためには、自身の置かれた状況などから「自分にとって必要な情報は何か」を正しく判断したうえで読み取ることが重要である。言語活動を行うに当たっては、日常的な話題に関して、できるだけ現実に近い場面を設定することや、読む目的を生徒が理解できるよう指導することが大切である。

通し 番号	解答 形式	観点		問題の内容	出題のねらい	県平均正 答率(%)	レベル別正答率(%)				
		知	思				1	2	3	4	5
24	短答		○	長文の読み取り	生徒が校内に配信した話の内容を読み、その要点を捉えてメールを書いている。	27.7	0.6	6.0	14.6	47.8	82.2

文章の要点を捉えることに課題があると考えられる。文章全体を通して読み、複数の情報の中から書き手が最も伝えたいことは何かを判断して捉えることが重要である。言語活動において、繰り返し用いられている語句や同じ内容を言い換えている表現、文章中の問いかけなどを手掛かりにして最も大切な語句や文を選んだり、段落内の文章の構成を把握したりすることが大切である。

通し 番号	解答 形式	観点		問題の内容	出題のねらい	県平均正 答率(%)	レベル別正答率(%)				
		知	思				1	2	3	4	5
30	記述		○	場面に応じて書く英作文	対話の流れに合った英文を、相手に伝えるように書いている。（Whereを使って場所をたずねる）	16.7	0.0	0.7	6.5	23.1	64.5

場面や状況に応じて文の形式などを適切に判断することが大切である。普段から文脈に応じて理解した文法事項を正しく活用したり、活用することを通して文法事項を理解したりする活動に取り組むことが考えられる。また、疑問文を正確に書くことには経年的な課題がある。疑問文を用いて話したり書いたりすることを、3年間を通じて継続的に行うこと、またのその際に正確性を高める指導を適宜行うことも大切である。